

メディアワークショップ 自己評価表

		基礎段階の学習者		自立した学習者		熟練した学習者	
		A1	A2	B1	B2	C1	C2
プロジェクトの達成度	記録能力	記録は面倒だけど、意識できる。(SNSにも少しだけ記録を意識できる。)	少し記録してみても、記録しておくのは便利だと意識できる。(作業報告をSNSで少しだけ記録することができる。)	プロジェクトを進めるために、記録すると他のメンバーにも伝わり、仕事がかどることが理解できる。(SNSでの自分の作業報告は完璧。)	プロジェクトを進めるために、記録が大切で、チームを動かすことができる。	プロジェクトに必要な書類があることが理解できる。書類を揃えることの意味が少しだけ理解できる。仕事が無難になると意識できる。	プロジェクト基本計画書、WBS、ガントチャート等の書式を充分理解して、書類を作成することができる。(SNSでの作成報告も全て漏らさず記録することができる。)
	情報共有能力	情報を共有することは大切だが意識できない。	SNSや、電話、メール等を通じて、自分の作業報告をすることができる。	自分の作業報告をチーム内の人が見える状態で残すことができる。	チーム内の全員に自分の作業状況が伝わるように心掛けた報告ができる。	チーム内での情報を、SNS、メール、電話、面談等を通じて充分共有でき、整理することができる。	チーム内での情報を、SNS、メール、電話、面談等を通じて充分共有でき、整理して伝えることができる。
	コミュニケーション能力、チームワーク能力	プロジェクトの進行を妨げずに作業ができる。なんとなくみんなで協力できている。現状の作品をみんなと協力してつくれる。	プロジェクトは常にうまくいっている。チーム内の自分の力の位置づけができ、協力することができる。	プロジェクトには若干の問題点があると把握できる。チーム内の仲間の力を把握することができる。現状の作品の問題点を自分で把握できる。	プロジェクトの途中で予想外の問題が起きた時に、解決の努力ができる。チーム内の仲間と自分の力を把握し、合わせることもできる。現状の作品の問題点を把握してチームで共有することができる。	プロジェクトの途中で予想外の問題が起きた時に、自分で解決しようと思うことができる。チーム内の自分の力を活用して他のメンバーに影響を与えることができる。作品の「改善」を少しだけ行うことができる。	プロジェクトの途中で予想外の問題が起きた時に、積極的に問題解決に協力することができる。チーム内の仲間の力を充分引き出すことができる。常に「改善」を心掛けて、チーム力を向上させることができる。
作品の質	伝達性	伝えることがまだはっきりしていないが、なんとなく完成することはできる。	伝えることを自分ではっきりと理解でき、完成できる。	伝えることを自分で理解できるが、人に伝えることは難しい作業だと意識できる。	伝えることを視聴者を意識して作品にこめることができる。	伝えることを視聴者には伝えないで、伝統的手法を学ぶことも大切であると把握できる。	伝えることを視聴者を意識して、伝統的手法も取り入れて、作品にこめることができる。
	独創性・自覚度	独創的スタイルをこめた作品作りを目指せるが、充分とは言えない。	独創的スタイルをこめた作品作りを目指せる。	独創的スタイルを自分ではっきりと意識することができる。	独創的スタイルを追求できるが、人にうまく伝えるのは難しいことだと意識できる。	独創的スタイルを作品に充分こめることができ、視聴者に訴えることができる。	伝統的手法を充分踏まえながらも、独創的スタイルを導入して浮き上がらせることができる。
	学びの継続性	なんとなくこの学びの意味が理解できる。	この学びが求めている方向性、ポイントが理解できる。	この学びが少しだけ自分で理解でき、整理することができる。	この学びを自分では充分理解でき、学びを深めようと努力できる。	この学びを少しだけ後輩にも伝えることができる。	この学びを充分把握でき、後輩にも間違いなく伝達できる。